

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 文学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	島 克也
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) Robert Heinleinの青少年向けSF小説における白人性 ―多文化主義帝国の終焉―			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)	教授	新田 玲子	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	吉中 孝志	
審査委員 (Name of the Committee Member)	教授	今林 修	
審査委員 (Name of the Committee Member)	准教授	大地 真介	
審査委員 (Name of the Committee Member)	大阪大学 教授	渡邊 克昭	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本論文は、アメリカ SF 作家ロバート・ハインライン (Robert Heinlein [1907-88]) の作品群のなかでも、初期にあたる 1947 年から 1958 年までに執筆された 12 冊の青少年向け SF 小説群を軸に据えている。これまでこれらの初期作品は、ハインラインの執筆姿勢が定まっていない時期の著作と見なされ、十分に論じられることはなかった。しかし島氏は、当時ハインラインが置かれていた状況を考慮しながら「白人性」の観点から作品を分析しなおし、後年のハインラインの著作姿勢がこれらの作品ですでに明確に現れていることを論証する。</p> <p>論考に際して島氏が着目した「白人性」は、白人であることが様々な特権を発生させ、白人でないものから自らを隔てるような「思考」である。この「思考」における「白人性」は、おおむね、「帝国型」、「共和国型」、「多文化主義型」、「人種主義型」の 4 種類に分けられる。島氏は青少年向け SF 小説群に登場する人物をこうした 4 種類の「白人性」に分類し、彼らが生み出す緊張した構造を分析して、ハインラインがその勝者の座を与えている「多文化主義型の白人性」こそ、第二次世界大戦後のアメリカが目指していたものであると論じる。さらに、ハインラインはその「多文化主義型の白人性」にも様々な問題点があることを、この時期すでに描き出していると指摘する。</p> <p>本論は序章において、論の目的、先行研究の系譜、本論の方向性を述べる。そのあと第一章では、ハインラインの青少年向け SF 小説の背景として、ハインラインの人格形成や執筆姿勢に影響を与えたハインライン家の事情、青少年向け SF 小説が執筆された当時の生活状況や社会情勢を概観し、さらに本論の分析に用いられる「白人性」が解説されている。</p> <p>第二章から四章では、青少年向け SF の 12 作について、その内容が似通ったものを三つのグループに分けて扱う。そのうち第二章で扱われる作品では、様々な「白人性」を持った登場人物が描かれながらも、最終的には「帝国型」支配層が打倒される。第三章で扱われる作品では、「多文化主義型の白人性」を保持した新しいヒーロー像が模索される。そして第四章で扱われる作品では、様々な政治形態の国家間の摩擦や、異文化との交流で発生する諸問題が描かれ、ハインラインがこの時期にすでに、「多文化主義型の白人性」が普遍的な白人性として機能しえないと考えていたことを指摘する。</p> <p>第五章は、青少年向け SF 小説の 13 作目として出版予定だった『宇宙の戦士』について、それがそれまで青少年向け SF を出版してきたスクリブナーズ社によって拒否された理由を「白人性」の観点から論じる。島氏はこの衝突から、第二次世界大戦後、多文化主義型の帝国となったアメリカの中枢では、既得権益の継承と階級の固定化が進み、従順な国民の大量生産が図られつつあったことと、そうした当時のアメリカ社会体制を否定するような著作姿勢がハインラインにあったことを、指摘する。そしてこの否定的姿勢は彼の後年の著作に受け継がれてゆくだけではない。島氏は、ハインラインが第二次世界大戦後間もない時期に、すでに、アメリカが目指す「多文化主義型の白人性」には、それと矛盾する人種主義的欠点が内包されている点を洞察していたと、彼の批判を高く評価する。そして彼の洞察は、21 世紀に入って起きた 9・11 などに見られるアメリカの人種主義的反応を予見するものであり、ハインライン作品が現代に通じる高い価値を持っていると、結論付ける。</p>			

テキスト分析においてさらなる発展が望まれる箇所もあるが、近年のホワイトネス・スタディーズの研究成果を援用してハインライン作品に新たな現代的解釈ももたらしている点は高く評価できる。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)